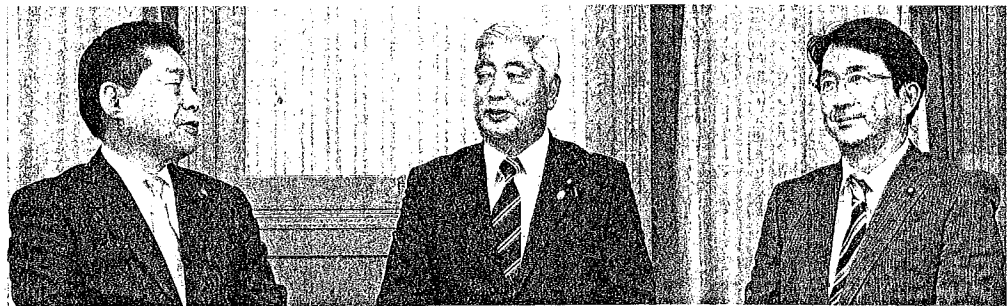


改憲論議は動くか

自・民・公 審査会担当者座談会



公明 北側 一雄氏

きたがわ・かずお 創価大卒。創価大卒。幹事長を経て副代表。安全保障関連法づくりでは中心的な役割を担った。衆院当選8回、大阪16区。63歳。

自民 中谷 元氏

なかたに・げん 防衛大卒。陸上自衛隊。防衛庁長官、防衛相を歴任した防衛問題のプロ。党の安保法制整備推進本部長も務めた。衆院当選9回、高知1区。59歳。

民進 武正 公一氏

たけまさ・こういち 慶大卒。たけまさ・こういち 慶大卒。外務副大臣、財務副大臣。現在は党憲法調査会の事務局長。野田佳彦幹事長に近い。衆院当選6回、比例北関東。55歳。

日本国憲法が公布されて11月3日で70年。安倍晋三首相が憲法改正を実現するには、国会で改憲案をまとめて発議し、国民投票にかけなければならない。国会論議の主舞台となるのが衆院憲法審査会だ。自民党筆頭幹事の中谷元氏、民進党筆頭幹事の武正公一氏、公明党筆頭幹事の北側一雄氏の3人が座談会で、改憲論議の進め方などをめぐり意見を交わした。

野田 永田 永田 インサイド

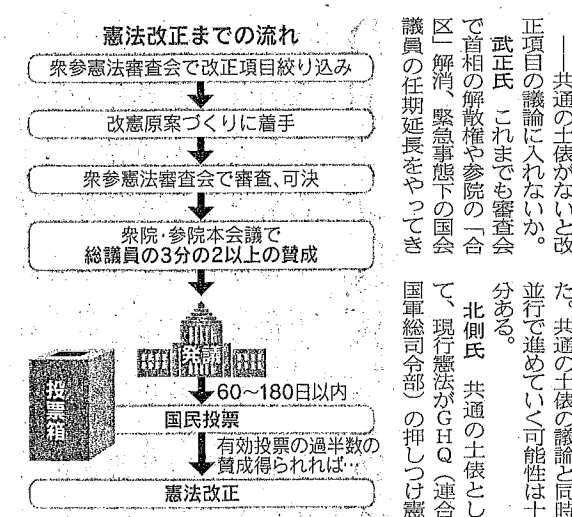
優先すべき項目 今後の憲法改正の項目として想定するのは、中谷氏 新時代にふさわしい改正は必要だ。大規模災害などの緊急事態

議論をどう進めるか。中谷氏 まずは与野党が自由に行憲法への認識を述べ、あい、あざむき改憲内容を議論していきなさい。党利党略を超え、静かな雰囲気の中で議論できるテーマを選ぶべきだ。

論戦どう進める

対立から、どうしても影響を受けず。中谷氏 それは間違っている。政局から改めて国会が議論の機会をもたないのは国民に不誠実だ。

中谷氏 党利党略超え熟議 武正氏 与野党対立が響く



共通の土俵がないと改憲の議論は入りません。武正氏 これまでも審査会で首相の解散権や参院の「合区」解消、緊急事態下の国会議員の任期延長をやったとき

記者の目 国会の場で具体的議論を

衆院の憲法審査会は昨年6月以来、実質的な討議がなかった。11月10日に再開する見通しだが、議論を始めるための「入り口」の調整に手間取った。議論停滞の責任は与野党にある。

Table with 2 columns: 検討課題となっている主な改正項目 and 緊急事態条項, 環境権など新しい人権, 財政規律条項, 参院「合区」解消, 自衛隊

安保法の評価は 現行憲法は戦後70年問、改正されていない。評 中谷氏 現行憲法の「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」という3つの基本原則が果たした役割は極めて大きい。将来もこれは決して揺るがせてはならない。

武正氏 立憲主義揺らいだ 北側氏 憲法解釈の範囲内 中谷氏 自民党が発表した歴史的な公式文書の一つだ。撤回できる性質ではない。北側氏 自民党が12年草